＜第４４０２回＞
目的地：富士山
担当者：時本
実施日：2023年9月2日（土）～3日（日）
形　式：ビジネスホテル前泊・日帰り山行
費　用：¥39,000.
（内訳）
青春18きっぷ（往路）　2,410円（12,050円 / 5）
JR東海（三島駅→茨木駅　東海道新幹線・Express予約／復路）　11,280円
レンタカー　7,865円（15,730円 / 2）
有料道路通行料金　1,540円（3,080円 / 2）
富士山パーキング　500円（1,000円 / 2）
ガソリン代　584円（1,167円 / 2）
登り坂ホテル　8,400円　シャトルバス（往復）　2,500円
富士山入山料　1,000円
１日目食事　9/2　昼食・夕食　1,300円　山行中食事　9/3　朝食・昼食　1,000円
下山後食事　9/3　夕食（弁当）　500円　その他（調整）　121円
参加者：2名

行　程：
9/2　天気：曇り
京都駅(8:30)⇒(9:26)米原駅(10:00)⇒(10:32)大垣駅(10:41)⇒(12:09)豊橋駅［昼食］(12:42)⇒(13:17) 浜松駅(13:28)⇒(14:40)静岡駅(14:51)⇒(15:49)三島駅・レンタカー営業所 (16:05) ＝［レンタカー］⇒(17:20)富士河口湖町内ビジネスホテル［泊］
9/3　天気：登山道周辺は快晴、麓は曇り
(2:00)起床・ビジネスホテル(2:35)＝［レンタカー］⇒(3:05)富士山パーキング(3:40)＝［シャトルバス］⇒(4:20) 富士スバルライン五合目（吉田口五合目）[2,305m](4:33)→(5:08)六合目[2,390m](5:14)→(5:50)七合目[2,688m](5:53)→(6:55)八合目[3,040m](7:06)→(8:15)本八合目[3,370m](8:35)→(9:21)九合目[3,600m](9:31)→(9:57)吉田口頂上 [3,710m](10:21) → (10:50) 浅間大社奥宮・土産物屋(11:04)→(11:12)剣ヶ峰[3,775.5m](11:32)→(12:05)吉田口頂上・吉田ルート下山口(12:26)→(14:40)六合目→(15:10) 富士スバルライン五合目(15:30頃）＝［シャトルバス］⇒(16:15頃）富士山パーキング(16:40頃）＝［レンタカー］⇒(18:00頃) レンタカー営業所・三島駅(18:55) ＝（JR東海・新幹線）⇒ (20:37) 名古屋駅(20:41)⇒(21:15)京都駅
感　想：
2017年9月に初めて富士山に登ったあと、「もう一度富士山に登りたい。次は日帰りで。」と思っていました。そこで昨年計画したのですが、天候が芳しくないように思えましたので中止し、今年改めて計画しました。ところが出発の前日に、山の天気予報である「てんきとくらす」の登山当日の富士山の予報を見ると”C” グレード（風または雨が強く、登山に適していません）となっていたので、参加を申し込んでいただいたＮさんと相談のうえ山行計画担当の承認を得て、日程を１日後にずらしました。
関西を出発する例会初日、費用削減を目指し、青春18きっぷで長距離の移動をしました。車中で翌日の出発時刻の話になり、元々富士山パーキング4:30発のバスに乗車する計画でしたが、Ｎさんから「僕は早い時刻でも構いません。」と出発時刻を早めるように促されたため、一旦4:00発のバスに乗車することとしました。豊橋駅構内で昼食後、引き続き電車での移動

中、再びＮさんから、できるだけ早いバスの方が良いのでは、と言われたため、始発の3:30発のバスに乗車しようということになりました。また、高山病対策の薬として、ダイアモックスを準備していましたので、Ｎさんに、登る前に服用しても良いですし、もし登っている最中に高山病の兆候が少しでもでてきたら遠慮せずすぐに仰ってくださいとお伝えしました。

三島駅でレンタカーを借り、翌朝はできるだけ時間短縮をした方が良いと思いましたので、富士山パーキングの位置及び同パーキング内のバス乗り場の位置の確認をするとともに、翌朝にバス乗車券の購入のために並ぶことを避けるため、バス乗車券を購入しました。その後、富士河口湖町内の宿に近づくと、それまで曇っていて姿を見せなかった富士山のほぼ全景がきれいに見えました。明日もこのような天気に恵まれたらイイネと言いながら宿に入りました。夕食は近くの店舗で摂るかコンビニ弁当にしようか相談しましたが、時間がかからない方が良いという結論でコンビニ弁当とし、２人で食べましょうというＮさんの提案でＮさんの部屋で一緒に食べ早々と就寝しました。

翌日午前２時起床、2:30にホテル１Ｆのロビーに集合し、レンタカーで富士山パーキングに向かいましたが、カーナビが違う場所を示し、富士山パーキングへの到着に手間取りました。前日、カーナビは適正に誘導してくれましたが、翌日は適正な場所に誘導しないという不可思議な事象に少し焦りましたが、前日の下見で見覚えのある場所を頼りに、15分程度のロスタイムで無事到着し事なきを得ました。始発から２番目のシャトルバスに乗車して富士スバルライン五合目に到着し、4:30過ぎに登山を開始しました。五合目は標高約2,300mだし夜明け前なので、もう少し寒いかなと思っていたのですが、意外と寒さは感じませんでした。

六合目までは基本は広い道の緩やかな登り坂ですが少し下るところもありました。歩いていると前方に山中湖が俯瞰できます。六合目到着後、これから登る方向を見ると、日の出前の光を受けて赤い色に染まっていました。

六合目出発後、七合目、八合目と順調に登っていきました。例会出発前に、今年は富士山がユネスコ世界文化遺産に登録されて10周年ということに加えてインバウンドの登山者が増えているということで、登山道に行列ができて進めないとか、入山規制があってそもそも登れないのではということが危惧されたのが嘘のように渋滞は全くと言っていいほどありませんでした。　シャトルバスの始発から２台目に乗車できたことで、登り始めの段階で先に進んでいる人が少なく、途中の山小屋から出てくる人はもっと早く出発しているといったことが理由かも知れません。そうであれば、Ｎさんが早く出発しようと促されたことが功を奏したと言えるでしょう。また、当日を含む前後の天候が不安視されたことや、９月に入っていたことも影響したかも知れません。いずれにしても、登山道に渋滞がなかったのは、時間短縮に大いに役立ちました。

八合目～本八合目にある白雲荘前で小休止しました。ここから、2021年７月に登ったギザギザの尖った頂がいくつか見える八ヶ岳が遠望できました。白雲荘前で、吉田口頂上到着時刻を予想してみました。すると驚いたことに11時前に到着できると推定されたのです。例会案内や登山計画書では、12:30までに吉田口頂上に到着すれば、お鉢巡りに行くことになっていましたが、余裕で行けそうです。順調に進んでいると自覚していましたが、これほどまでに早いとは思っていませんでした。出発前は、多分吉田口頂上には到着できると思っていましたが確信を持てていたわけでなく、お鉢巡りはぜひ実現したいができるかどうか不安があるといった状態でしたので本心からホッとし、隣のＮさんにも「お鉢巡りができますよ。」と告げました。

八号目～本八合目間で3,200mを越え、標高日本第２位の北岳より高い位置になります。前回（2017年９月）に来た時は、本八合目で泊ったことを思い出しながら先に進みました。本八合目で休憩した際に、Ｎさんにダイアモックスを持参しているので服用されるかどうかを確認したところ、頭痛や気分が悪いといったことはなく、服用しなくて良いという頼もしいお返事でした。私も同様でしたので、そのまま服用しないこととしました。本八合目を越えて少し進ん

だあたりで、これから登る登山道と、下山道の両方が見渡せる場所に来ました。この景色を見て、下山道を下る身分に早くなりたいと思いました。

九合目を過ぎると傾斜はきつくなりますが吉田口頂上までのカウントダウンが始まり、気持ちが前向きになりました。本八合目あたりからですが、他の登山者で歩くのが遅い人を見かけるようになりました。その数は次第に増えていき、九合目を過ぎる頃になると 80% ～ 90% の人の歩みが非常に緩慢になっていると感じました。また、少し早く歩いている人でも、休憩を頻繁にとる傾向があるように思いました。これは、高山病の兆候が少し現れているか、空気が薄いので酸素を充分に吸収できていないか、日頃山登り等の運動をしていない人が多数登っているか、今まで登ってきたので疲労が蓄積しているか、それらの要素が複合的に作用しているのかといった理由によるものと思われます。ただ、富士山の吉田ルートは一部の区間を除いて追い越しできる程度の道幅があり、遅い人がいてもすぐに渋滞になるようなことはありませんでした。

やがて吉田口頂上に到着しました。時刻は10時前で、出発が早かったとはいえ、予想より相当早い到着です。これで少なくとも富士山の日帰り登山は実現したことになります。ただ、富士登山の醍醐味は、お鉢巡りをして、日本最高所からの景色を楽しむことだと思います。また、例会案内や登山計画書では、レンタカーの営業時間にレンタカーを返せない予定となっていましたが、当日の次の目標は、その日のうちにレンタカーを返却して関西に帰ることとなりました。

今迄の登山道でもそうでしたが、富士山頂上は湿度が低く爽やかな感じで、風も少なく穏やかな感じでした。快晴で標高が高いため直射日光がきついはずですが、暑さを感じず、寒さも感じず、丁度過ごしやすい感じで、一足早い秋を感じました。前回に来た時は頂上は寒く、ダウンを着てお鉢巡りをして、途中でツララを見つけたほどでしたが、今回は単に長そでシャツ１枚で歩けました。

お鉢巡りを始めましたが、当日は上の方は快晴だったものの下に雲が広がり、麓の景色は殆ど見えない状態でした。それでも、一部に雲が途切れ、部分的に景色が見えました。海岸線は場所が特定しやすく、相模湾が見えたときは、この辺りが見えていると分かり、景色に親しみを感じました。また、左手に芦ノ湖が俯瞰できました。

更に進むと富士山の火口が見える場所にやってきました。今までも、この後の別の場所でも火口が見えるところはありましたが、このあたりからが最もきれいに見えます。

やがてお鉢巡りの最南部の浅間大社奥宮に到着しました。ここは、富士宮ルートや御殿場ルートといった別の登山道で登った時の頂上（火口周囲の高くなっているところへの到着地点）です。すぐ横の販売店でＮさんは、富士山の登頂記念バッチを購入されました。吉田口頂上近くの販売店で売り切れと言われて残念がっておられただけにこちらの店で購入できてご満悦でした。私もつられて富士山登頂記念バッチを購入しました。この店でＮさんは、ご自身も意思決定に加わったという思いがあったのでしょう、日程を１日遅らせたことが良かったのかどうかを確認するため、店の人に、昨日と当日のどちらが天候が良かったかと尋ねられました。店の人は２人とも、「今日の方が登山に良い。昨日は風があって寒く感じた。」と言われていましたので、横で聞いていた私も、日程を変更して良かったと思いました。

火口の周囲の道（お鉢巡りの道）を西に向かうと、駿河湾が見えてきました。駿河湾の向こうには、伊豆半島の一部と思われる陸地がかすかに見えました。今回は、前回行った時と異なり、伊豆半島が地図で見るのと同じような形では見えませんでしたが、半島中の山がかすかに見え、半島が続いていることが想像できました。

やがて、お鉢巡りのクライマックスというべき、というか、富士登山のクライマックスというべき剣ヶ峰が見えてきました。最後のまとまった坂である「馬の瀬」を登り、ついにやってきました、剣ヶ峰。前回行ったときは、剣ヶ峰の標識に向かって長い行列ができていて、標識

を背景に写真を撮ることを断念したのですが、今回は行列が短く写真が撮れました。その点を考えても前回よりも人が少なかったようです。なお、剣ヶ峰の標識には、「日本最高峰　富士山　剣ヶ峰　（少し小さい字で）3,776 米」と書かれています。

剣ヶ峰を過ぎると、南アルプスが見えてきます。ここは南アルプスを高所から見る唯一の展望台です。あいにく雲が多くて山容全体が見えにくく、北岳は山頂が雲に覆われ、そのすぐ右奥にそびえるはずの仙丈ヶ岳も雲に隠れていました。それでも、いくつかの優駿な山々が山頂を見せてくれて良かったと思います。

吉田口頂上に戻り、しばらく休憩後、吉田ルート下山口から一路五合目に向かいました。帰りは、砂地の道が多く、滑りながら降りていく感じがするため、高速で降りて行くことになります。その影響もあって、スバルライン五合目の登山口に戻ってきたのは 15:10 と、予想外の早さでした。スバルライン五合目に到着すると、Ｎさんは「今朝、ここを出発したんですよね。とても今日のことと思えない。」と感慨深げに言われましたが、私も全く同感でした。今日のこととは思えない・・・・・昨日よりもっと前のような・・・・・遠い過去のような気さえしました。長い、長い、充実した１日でした。ここで登山用アプリの YAMAP の活動記録を終了すると、スマホの画面に、距離・高度表が表示されました。お鉢巡りをした影響で高所にいた時間が長かったため、丁度富士山のような形になったので、面白いと感じました。

その後シャトルバスとレンタカーに乗車し、三島駅から新幹線で関西方面に帰ってきました。車中では「これで２人とも日本の山では高山病にならないことが証明されたね。」と言ったりして祝杯を挙げました。日帰りで登り、その日のうちに関西に帰ってきたため、富士山が身近な山に思えてきました。

富士山日帰り登山を無事達成できて本当に良かったと思います。達成して初めて、そのときの状態や難易度について自分の感想として自分の言葉で言えると思います。この感覚は以前にも感じたことがあり、劔岳にカニのタテバイ、ヨコバイを経由して登った時と同じです。今回の例会は、当日が天候に恵まれたことも良かったことですが、山行中はＮさんのお陰でペースを無理なく維持でき、例会中気を使わず過ごせたことも良かったです。それに、そもそもＮさんに参加をしていただいたお陰で例会として成立しました。今回の富士山例会は紛れもなく２人で作っていったものと思います。いろいろとお世話になり、ありがとうございました。